

- (1)
  - ・開催規模の拡大に向け、出展申込み相次ぐ
  - ・増小間・新規の申込みが殺到
  - ・出展申込み締切 2月29日
- (2)
  - ・主催者・事務局の取り組み
  - ・注目される特設ゾーン
  - ・会場拡張の背景に迫る

# GPEC NEWS Vol.2

## GPEC2016 出展申込み 締切迫る

### 開催規模の拡大に向け、出展申込み相次ぐ

7月27日(水)から29日(金)に東京ビッグサイトで開催される施設園芸・植物工場展2016(GPEC)。出展募集は昨年11月から開始され、すでに多くの企業が出展を申込み、開催規模は前回の規模を大きく上回る見込み。第4回目のGPECは、展示ホールを拡張し、収容規模を倍増する。主催

### 増小間・新規の申込みが殺到

出展の継続に加え、増小間相次ぐ

2年間待ち続け 念願の初出展へ

TPPを受け、日本の農業の強さが求められる中、GPECには申込みや問い合わせが、例年よりも早くから寄せられている。また、その数も過去最大規模での開催となった前回より多く、本展を積極的に活用しようとの姿勢が目立つ。

事務局によると、前回より展示スペースを増やす出展者が続出。増加分と新規申込みの小間数を合わせると、1月末の時点で全体のおよそ半数に及ぶ。増小間の要因は「前回は手狭に感じた」「実演を含む新しい展示製品を増やす」など。さらに、検討中企業も展示スペースのアップには積極的で、規模はさらに拡大しそうだ。

GPECが隔年開催を続けるのは、出展企業の製品開発サイクルに合わせ、「常に新しい製品・技術を展示紹介することで、より効果的な商談や情報交流ができる」(大規模出展者)からだ。前回、会期中の商談実績は86%を超え、業界内でも「GPECは開催規模に対して、熱心な生産者の来場が多い」と評判を得ている。中には「15から20小間ほどで検討しているが、同業他社の状況を教えてほしい」と問う企業もあるなど、2年ぶりの出展に強い意欲がうかがえる。

「自社の製品をPRするには、GPECが最適だと考えていた」「2年前からずっと出展したいと思い、予算の確保に努めてきた」と話すのは、初めて出展する企業の社長や担当者たちだ。簡単に使える環境制御技術や、従来の1/20まで農薬使用量を減らすことができる栽培システム、病害に対する抵抗力を高めるLED光源などが出展される予定だ。

### 担当者必見! GPEC2016会期までのスケジュール

2月29日(月)	出展申込 締切
: 入場引換券(裏面参照)を出展PRにご利用ください。	
3月31日(木)	出展料金 支払期限
: 申込書受理後、出展小間料金の請求書を送付します。期限までにお振込みください。	
4月下旬	出展者説明会(東京都内にて実施予定)
: 会場レイアウトの発表、出展マニュアル・提出書類等を配布します。展示に関する提出書類を各期限までにご提出ください。	
7月27~29日	会期



加えて、GPECを同様に評価する企業は多く、1月末までに申込みを済ませた出展者のうち、全体の4割超を新規出展者が占めている。引き続き事務局には、検討中との申し出も複数寄せられていることから、さらに新規出展者の数は増える見込み。生産者のニーズや環境の変化に対応する為に開発された、新製品や新技術の出展が期待される。

者(日本施設園芸協会)は、わが国の農業が直面する国際化の波に対し、最高の技術が集結する場を提供し、来場者と出展者の双方が「稼げる農業」を実現していくための礎を築きたいとしている。また、今回新たにアグリ・ビジネス・ジャパンを同時開催し、相乗効果を目指す。



### 出展申込み 締切 2月29日(月)

海外企業や自治体から 高まる関心

海外からの申込み、問合せも複数寄せられている。オランダ、韓国をはじめ台湾やスペイン、アメリカからも、GPECへの出展が予定されている。各社ともに日本やアジアを新しい重要なマーケットと捉え、生産者の来場が多いGPECを拠点に商機の幅を広げていく考えだ。先進的な栽培技術や機器・資材、種苗など、日本の生産者にとって画期的な製品が提案される見込み。

国内に目を向けると、自治体も出展に名乗りを上げている。「大規模な農場や植物工場の誘致を目的とし、次年度予算にGPEC出展を組み込みたい」(九州エリア・自治体)との連絡が事務局に寄せられている。

また、地場産業の活性化を狙い、地域の農業資機材メーカーを複数集めた共同出展を計画している自治体も声を上げている。

まだ間に合います 今すぐご連絡を

出展申込み締切日が迫る一方で、来年度の予算や出展計画、内部体制が決まっていらない企業・団体も多く、事務局では、締切後の申込みについても柔軟に対応する構えだ。併せて、出展予定や検討中といった意思を事前に確認したいとしており、出展検討中の担当者は、本NEWS下段のアンケートで至急連絡していただきたい、としている。

返信先 FAX:03-3503-7620

出展に関する資料請求や詳細のお問合せ先  
施設園芸・植物工場展(GPEC)事務局  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル4階 アテックス(株)内  
TEL:03-3503-7703 FAX:03-3503-7620 www.gpec.jp E-mail:ofc@gpec.jp

【個人情報の取り扱いについて】  
ご提出いただきました個人情報につきまして、今後事務局から展示会情報などのご案内(ダイレクトメール・E-mail)をお送りする場合がございますので、あらかじめご了承ください。なお、ご提出いただきました個人情報は、事務局にて厳重に管理いたします。また、事務局が管理するご自身の情報について、修正、展示会情報等の受け取りの停止、データベースからの登録抹消を希望される場合は、事務局までご連絡ください。

出展を検討中の方はこちらのアンケートにご回答ください。

#### ■出展について

1. 予定( ~ )小間
2. 検討中( ~ )小間

1・2の場合、出展予定製品について

3. 詳細を知りたい(後日、事務局担当者よりご連絡いたします)

#### ■記入者連絡先

会社名 \_\_\_\_\_  
 部署・役職 \_\_\_\_\_  
 氏名 \_\_\_\_\_  
 TEL \_\_\_\_\_  
 FAX \_\_\_\_\_  
 E-mail \_\_\_\_\_  
 〒 \_\_\_\_\_ 所在地 \_\_\_\_\_



# 生産者の来場増員をめざして～主催者・事務局の最新取り組み

生産者の来場比率50%超を目標とする主催者および事務局は、様々な方面から企画を検討している。

## 公式Webサイトの更新・拡充

GPECの基本情報や出展者情報などを掲載しているWebサイト。事前来場登録は3月下旬、セミナーの聴講登録は5月下旬からそれぞれ開始予定だ。



## 在日大使館を通じた情報発信

事務局は在日大使館向けに、GPECへの出展・来場を促すための案内レターを送付した。早速、来場希望が寄せられており、自国の食糧問題解決に向け、出展者に相談したいとの切実な返答もあった。今後も情報提供を続けることで、海外ユーザーの来場を促進する考えだ。



## セミナー、イベント企画が進行中

出展者の展示に加え、さまざまな情報を提供する併催イベントも目白押しだ。セミナーや主催者展示、生産者相談コーナーなど、毎回好評のイベントは継続し、新たな企画を主催者および事務局は進めている。



## 入場引換券を発行

来場者動員ツールとして最も効果が高い招待券。来場予定者に直接届くことで、期待感を高める。今回は通常の招待券に加え、先行アイテムとして「GPEC2016入場引換券」を発行する。重要顧客や新規ターゲットに前もって配布できる本券は、有益に使いそう。発行は2月下旬を予定。

## 農業関連の新規展示会も同時開催

農業関連の新規展、「アグリ・ビジネス・ジャパン」は「稼げる農業ビジネスEXPO」と「食農・就農交流展」で構成される。

「稼げるEXPO」は、将来的な輸出・海外展開への必要性を背景に、農林畜産業と経済界の異業種連携の促進をテーマとする。出展対象は圃場全般における生産技術・ICT導入、育種・植物保護技術、機能性食品、さらに生産者の6次産業化支援機器や経営コンサルティング、兼業・派生ビジネスなど。農業法人や篤農家はもちろん、新規参入の異業種企業や投資機関等の来場を目標としている。

一方の「食農・就農交流展」は、生産者が出展する展示会。農産品や加工品を展示し、食品関連・飲食業との連携をめざす「食農エリア」と、就農希望者との交流を図る「就農エリア」から成る。両展示会に関する問合せは左記の事務局へ。



アグリ・ビジネス・ジャパン事務局  
【アテックス(株)内】  
TEL:03-3503-7611  
FAX:03-3503-7620  
E-mail:ofc@agri-business.jp

## 効果抜群のオプションメニュー

出展と併せて活用したいのは「オプションメニュー」だ。

『出展者プレゼンテーション』では、新製品・技術の紹介や詳細説明など、30分を自由に使うことができる。終了後、聴講者をブースに誘導し交流を持つことで、相互理解を深めることができると、利用者から人気のメニューだ。

『ガイドブック』は会期中、会場でしか入手できない。「無料配布なのに情報量が豊富で、次回まで捨てられない」と来場者から好評。長期間、生産者の目に留まる絶好の広告媒体を、ぜひ活用したい。



# 注目される特設ゾーン



## 省力化

### 高齢化や就農人口減少に対する先端技術ソリューション

- ・アシストスーツ
- ・サポートウェア
- ・自動施肥機
- ・自走式防除機
- ・収穫ロボット・自動収穫機
- ・自動搬送機 など



## 省エネ・新エネ・再生エネ

### 生産者の収益改善、環境負荷低減にもつなげるソリューション

- ・省エネ型ヒートポンプ
- ・木質ペレット加温機
- ・バイオマス製品・技術
- ・太陽光発電システム・施工サービス
- ・再生可能エネルギーシステム など



## 高機能植物・葉草生産

### 食品・医薬業界も注目する栽培技術ソリューション

- ・施設園芸・植物工場で高機能植物(機能性野菜、サプリメント用食品)や葉草生産に取組む企業
- ・専用種子・種苗
- ・関連機器・資材 など



## 気象災害・熱中症対策

### 生産者が直面する自然災害・熱中症への緊急ソリューション

- ・気象情報・予報・受信システム
- ・除雪機・資材
- ・強風対策
- ・停電対策
- ・ハウス補強部材・資材
- ・震災対応型燃油タンク
- ・非常用電源
- ・熱中症計
- ・冷却剤
- ・飲料・サプリメント など



## 流通

### 生産物の安全・新鮮・美味しさを保つため最新ソリューション

- ・搬送器具
- ・自動搬送機械
- ・コンベア、レーン
- ・選果機、選別機
- ・野菜・青果物洗浄機
- ・機能水・電解水生成装置
- ・包装機器・資材
- ・集出荷施設
- ・物流・運送システム
- ・予冷施設・機器
- ・冷蔵・保冷库、冷蔵装置
- ・温度管理機器・資材
- ・貯蔵庫・施設
- ・異物検出・除去装置
- ・計量機
- ・梱包機
- ・温度管理システム
- ・トレーサビリティ
- ・出荷ケース、コンテナ、パレット
- ・加工施設
- ・調理・加工器具
- ・フードスライサー・カッター
- ・自動皮むき機
- ・乾燥機
- ・充填機
- ・衛生管理資材 など

## 加工

## Column

### 会場拡張の背景に迫る

過去3回、東京ビッグサイトの東4ホールで開催されてきたGPEC。今回、2館への拡張を決めた背景を探る。



展示会の規模は回を重ねるごとに拡大し、来場者数も堅調に推移。前回は会場のほぼ全域が展示スペースで埋まり、のべ38,421名が会場を訪れた。特に、丸一日をかけて場内をくまなく回る熱心な生産者の姿が数多く見受けられた。

来場者からは、「次回は展示会場を広くして、休憩スペースや食事ができるスペースを作ってほしい」「セミナー会場が満員で聴講できなかった、もっと収容できるようにしてほしい」との要望が複数寄せられた。一方で出展者からも、「会場の通路をもう少し広げてほしい」「休憩スペースがほしい」「業界発展のために、より多くの来場者と出展者を集めてほしい」などの声が挙がった。

これらの要望に応えるべく、日本施設園芸協会は検討の末、拡張を決断した。さらに、GPEC史上初の試みとして、農業に関する新規展を同時開催し、各農業分野間の相互交流もはかる。

会場レイアウトは、各社の展示内容や出展規模等を考慮しながら決定される。初の2館開催となるGPECが、どのような変化を見せるのか、期待は高まる。

